

金型用油圧シリンダー好調

内外で拠点拡充

タイ工場移転、能力3倍に

南武（東京都大田区、野村和史社長、03・3742・7377）は内外で生産拠点を拡大する。まず、タイ工場を同国内で移転し6月に稼働、生産能力を3倍に引き上げる。国内では静岡県浜松市にメンテナン工場を新設し、顧客が保有する油圧シリンダーの再利用を始めた。同社は自動車メーカー向けを中心に、金型用中子抜き油圧シリンダーが好調で、受注残に対応するため一気に生産能力を拡大する。

タイでは6月に完成予定の「オオタテクノパーク」

静岡・浜松にはメンテ工場

（千葉県）に入居する。大田区の中小企業が共同で進出する施設として建設中で、8区画に分けた建屋のうち、南武は3区画の計960平方メートルを使う。単

南武

独で借りていた現工場の約

3倍のスペースとなり、保有設備を移すほか、新たに1億2000万円の設備投資を行う。日本向けの部品生産にとどまらず、現地の自動車工場向けの完成品生産も拡大する。

また国内では浜松市内に

約330平方メートルの工場を借り、3000万円かけて設備を導入。自動車向け油圧シリンダーが好調で生産が追いつかないため、ユーザーが保有する油圧シリンダーを補修・改造して対応する。周辺の主要ユーザーの自動車メーカーにとっても、手持ち製品の再利用が納期の短縮やコストダウンにつながる」と見ている。

同社は、金型の保持や中子の引き抜きに使う特殊油圧シリンダーの最大手。小型のシステムで射出時の衝撃に耐える独自技術「スーパードックシリンダー」の評価が高く、06年9月期売上高は前年度比12・9%増の21億円を見込んでいる。